



kanamoto ■ カナモトエグザミネー examiner

株主の皆様ならびに投資家の皆様へ



vol.45

第44期(2008年10月期)第3四半期号

トピックス●第44期第3四半期財務・業績の概況

株主様からのご質問に答えるQ&Aコーナー●取扱商品のご紹介●株式情報

#44
3Q

2008.05

KE43

幕別営業所再オープン

サンクスフェア in 帯広を開催

サンクスフェア in 留萌を開催

KE44

IR

【名古屋】個人投資家説明会を実施

サンクスフェア in 横手を開催

2008.06

IR

第44期中間決算発表

KE44

IR

【東京】第44期中間決算説明会開催

KE44

東洋工業株式会社の子会社化を発表

IR

北海道洞爺湖サミット記念環境総合展2008に出展(札幌)

KE44

キョクトーリース株式会社の子会社化を発表

KE43

ハイブリッドトラックをレンタカーとして業界初導入

2008.07

サンクスフェア in 土別を開催

IR

ノムラ・アジア・エクイティ・フォーラム(NAEF)2008に出展

サンクスフェア in 岩見沢を開催

サンクスフェア in 会津を開催

KE44

IR

【松山・高松】個人投資家説明会を実施

サンクスフェア in 五所川原を開催

IR

長島茂雄INVITATIONAL セガサミーカップゴルフトーナメントに協賛

IR

道新・UHB花火大会に協賛

オリックス梁瀬社長と弊社社長が対談

サンクスフェア in 上越を開催



4Q

2008.08

IR

朝日新聞・HTB花火大会に協賛

IR

万作・狂言十八選 函館・五稜郭公演に協賛

サンクスフェア in 北上・登別を開催

IR

日経IRフェア2008 STOCKWORLDに出展(東京)

2008.09

IR

通期業績予想の修正を発表

鹿角営業所(秋田県)開設

IR

第44期第3四半期決算発表

サンクスフェア in 旭川を開催

IR

国内機関投資家訪問を実施

三好営業所(愛知県)開設

IR

東海三県ノムラ資産管理フェア2008に出展(名古屋)

IR

【札幌】個人投資家説明会を実施

2008.10



#45
1Q

2008.12

IR

ノムラ資産管理フェアに出展(東京) 12/5(金)~6(土)

IR

第44期通期決算発表 12/5(金)

IR

【東京】第44期決算会社説明会開催 12/8(月)

凡例 IR IR関係 IR イベント IR 関連情報をカナモトエグザミネー-vol.43に掲載 KE43 関連情報をカナモトエグザミネー-vol.44(前号)に掲載
青文字: 本号3-9ページに関連記事を掲載 今後のスケジュールにつきましては実施日を記載

セガサミーカップゴルフトーナメントに協賛しました

7月24日～27日、北海道屈指の名門コース「ザ・ノースカントリーゴルフクラブ」(千歳市)で開催された『長嶋茂雄INVITATIONAL セガサミーカップゴルフトーナメント』に、当社も初めて協賛しました。18番ホールイーグル賞を提供し、ティーグラウンド後方に当社のロゴ入り看板を設置。また、観客用の仮設トイレ70棟のほか、運営事務局用に仮設ユニットハウスや発電機をお貸し出しするなど、本業の「レンタル」でも会場運営のお手伝いをさせていただきました。

開催4日間のギャラリー数は延べ14,084人で、前大会を大きく上回ったとのこと。あの“ハニカミ王子”こと石川遼選手の参戦が大きな理由のひとつとなったようです。ギャラリーの皆さんも、そのプレイに一喜一憂していました。

さて、気になる結果は、欧州ツアーを主戦場に世界で活躍するJ・M・シン選手(インド出身)が優勝、日本ツアー3勝目を飾りました。最終日、23位タイからスター

トした石川選手は序盤からバーディラッシュで猛追し、見事3位タイに入賞。当社が提供した18番ホールのイーグル賞は、国内でも指折りの飛ばし屋・立山光弘選手が見事獲得しました。当社初の試みとなるゴルフトーナメントへの協賛は、たくさんの方々のゴルフファンの方々に「カナモト」をアピールできました。今後もイベントに関連するレンタルに注力していきます。☑



大会最終日、当社提供のイーグル賞がかかった18Hで豪快なティーショットを放つ石川遼選手



イーグル賞の立山選手(中央)に目錄を渡す当社取締役営業統括本部長の金本哲男。右端は優勝したシン選手

札幌の2大花火大会にも協賛しました



札幌の夏の2大風物詩「道新・UHB花火大会(7月25日)」と「朝日新聞・HTB花火大会(8月1日)」が今年も開催されました。ともに札幌市内を流れる豊平川を舞台に、色とりどりのスターマインや趣向を凝らした

道新・UHB花火大会2008
写真提供 北海道新聞社

創作花火などの充実したプログラムが観衆を沸かせ、暑気払いの爆発音を夜空に轟かせていました。

当社は毎年、地域に密着した活動の一環として、この札幌市民に親しまれている両花火大会のお手伝いをしています。イベントで必須となる仮設トイレ、暗い夜道の足を照らす照明機器とその動力源となる発電機をご用意。さらに、打ち上げ前の会場アナウンスでカナモトを紹介するなど、しっかりとPR活動もさせていただきました。

これからも身近な場所で、カナモトの名が皆様の耳目に触れる機会を増やすよう積極的に活動してまいります。☑

万作・狂言十八選に特別協賛社として参加しました

至宝の狂言師、野村万作が自ら選出した珠玉の狂言18作品を日本各地で上演する「万作・狂言十八選」。その第6回公演が8月6日、朝日新聞北海道支社創立50周年の記念事業として、夏の函館・五稜郭を舞台に実現しました。昨年、人間国宝に認定され、ますます注目を集める野村万作の公演に、当社は「特別協賛社」として参加しました。また、ステージ部材のレンタルとともに、舞台基礎部の施工も手がけさせていただき、この特別な文化催事のお手伝いをすることができました。当社では、こうした芸術文化支援「メセナ活動」も企業



野村万作がその至芸を披露した五稜郭の舞台。演目は「首引く上」・「二人袴(右)」の2作品
写真提供 朝日新聞社



価値の向上につながるものと認識しており、今後もCSRの一環として取り組んでいく所存です。kca

日経IRフェア2008に出展しました

今年も夏のIRイベント「日経IRフェア」(於東京ビッグサイト)に出展しました。8月22日、23日の開催2日間の来場者数は延べ14,000人以上。当社ブースにも多くの個人投資家の方々にお越しいただきました。



特設会場で実施した会社説明会



ブース内ではミニ会社説明会を実施

ブース内ではミニ会社説明会を頻繁に実施し、当社の事業内容・業績に加えて、建機レンタルと建設業界の現状や好調な海外中古建機需要などについてご説明すると、関連する数多くのご質問を頂戴しました。また、22日に実施した会社説明会は、100名の収容が可能な特設会場が満員御礼。“立ち見”のお客様が出来るほどの盛況に心より感謝申し上げますとともに、今後のIR活動をさらに充実したものにしようという決意を新たにしました。当社ではこれからもIRイベントへの出展や会社説明会の開催などを継続して行ってまいります。kca

秋田と愛知に新拠点を開設しました

9月3日、秋田県鹿角市に県内10拠点目となる「鹿角営業所」を開設いたしました。同営業所は、鹿角小坂地区での顧客サービス強化と需要の取り込みを目的とする拠点です。また、翌週9日には愛知県三好町に「三好営業所」を新設。当社が重点地域のひとつに挙げている中京地区での営業強化を目指し、愛知県内4拠点目の営業所として誕生しました。ともに高速道路のICに近く、また近隣の主要都市部へのアクセスも良好な立地にあり、多様なニーズにお応えす



中京地区での営業強化を目的とする新拠点、三好営業所



る新拠点として期待しています。当社は今後も効果的な拠点戦略を実施してまいります。地域に根ざし、お客様重視のサービス提供に努めるカナモトにご期待ください。kca

Inside Report

カナモトグループ企業紹介 株式会社エスアールジー・カナモト

カナモトグループに参画する企業をピックアップし、その事業内容などをご紹介するコーナー「インサイドレポート」。第2回は北海道で軽量仮設足場資材のレンタルを展開する株式会社エスアールジー・カナモトです。

安心・安全な現場づくりをサポート

株式会社エスアールジー・カナモトは、エスアールジータカミヤ株式会社（東証2部：2445）と当社の合併で平成11（1999）年に設立、北海道で軽量仮設足場資材のレンタルを展開している会社です。軽量仮設足場資材とは、鋼管を主材として、あらかじめ一定の



橋梁の耐震補強工事現場で使われる軽量仮設足場資材


形に製作した資材を、建設現場で特殊金具や付属品を使用して組み立てて、作業に必要な足場を設けるためのものです。オフィスビルや商業施設、マンションなどの建築工事で使われているのを一度ならずご覧になったことがおありはず。橋梁や高架橋の工事などでも使われています。用途を考慮すると建設会社様にお使いいただくことが多いのですが、最

近では屋外コンサートや大型のテレビセットなどイベント会社様にもお使いいただいています。

また、老朽化の進む高度成長期に建造された橋梁などのメンテナンス工事には欠かせないものの1つです。カナモトの開発した橋梁点検車・橋竜とともに、今後の活躍に期待が寄せられています。

旭川営業所を開設、グループ内の相乗効果を期待

札幌機材センター（北海道北広島市）と苫小牧機材センター（同苫小牧市）の2拠点を中心に営業活動を行ってきた同社ですが、去る9月1日に旭川営業所（同上川郡当麻町）を開設しました。旭川営業所が位置する道北地区は、カナモトが強固な顧客基盤を持つエリアであり、グループを通じて相乗効果が期待できます。

同社では、営業エリアの拡大を行い、カナモトグループの一員として連結業績の向上に努めています。 

とってもいいモノ・読者プレゼント

巻末のアンケートハガキをご返送いただいた方の中から、抽選で30名様にノベルティグッズを差し上げます。

今回のプレゼントは、昨年もご好評をいただいた当社特製のダイアリー手帳2009年度版です。

塩ビ製のカバーは水濡れに強いだけでなく、肌触りのいいオーストリッチ風の風合いの仕上り。当社のロゴとカナモト坊やをさりげなくエンボス加工してあります。機能面を見ると、前半のダイアリーは、左ページに1週間分のスケジュール欄、右ページは横罫ノートを配置しました。そして後段は、建設会社御用達のカナモトらしく「野帳」を思わせる集計表タイプのノート。一度使えば手放せなくなる究極の一冊です。来年のスケジュール管理はカナモトの手帳にお任せあれ！とは少々調子に乗りましたか。

ご応募の締め切りは11月14日（当日消印有効）です。

なお、当選の発表は商品の発送をもって代えさせていただきます。



裏面にはパワーショベルに乗ったカナモト坊やをデザイン

オリックスの梁瀬社長と 当社社長の金本寛中が対談



7月25日、オリックス株式会社（以下：オリックス）の梁瀬行雄社長が当社にご来訪され、金本寛中と対談されました。カナモトとオリックスは、レンタル資産の調達に関わるファイナンスリースや割賦などでお付き合いが続いているほか、オリックスは資本面でも1980年に実施した当社の第三者割当増資以降、現在も当社株式をお持ちいただく大株主であること、そして当社初の海外進出となる上海金和源にもご出資いただいている極めて親しい関係であります。今回の対談記事はオリックス社内報の「お客様との対談シリーズ」にも掲載されています。

経済環境の変化—伸長するエリアへの経営資源投下—

梁瀬 1年前にお会いした時とは経済環境が様変わりしましたが、経営環境はどのように変化していますか。

金本 建機レンタルは、建設投資の動向によって大きく左右されます。北海道を基盤に東北・関東・関西に進出していますが、中でも北海道の落ち込みは激しく、今年は底が抜けたような、どこまでいけば底が見えるのかという状況です。

梁瀬 地域格差が相当に鮮明ですね。

金本 北海道と東北は昨年から公共需要が低迷するとはつきりわかっていたので、本当は民間がもう少し努力するべきだったと思います。しかし、残念ながら時間が足りませんでした。急激な政策変更が行われてしまったため、追従できなかった状況です。

梁瀬 どこかの段階で歯車が順回転になり、景気が上向く可能性もあると思いますが。

金本 なかなか見えてきません。当社は比較的に広域で事業を展開しているので、前年より先伸びている関東などへ経営資源を投下し、またそのエリアを広げようと思っています。

海外へのアプローチ—進出しない方がリスクという考え—



オリックス株式会社
取締役兼代表執行役社長

梁瀬 行雄

梁瀬 マーケットは日本だけでなく、高度成長を続けているアジアなども考えられると思いますが。

金本 日本国内の建設需要が急激に上向くことはないでしょう。そうすると、取るべき道の1つとして、国外に展開していくことが経営の常道です。上海に現地企業と合併で建機レンタル会社を設立しましたが、営業開始から1年が経過し、やっと方向性が見えてきました。うまくいけば今年は黒字になると思います。

梁瀬 それは随分早いですね。

金本 市場規模は日本と比較にならないほど大きく、供給する機材さえ間違えなければ早く立ち上がります。いろいろなリスクはありますが、私は進出しない方がリスクだと思います。

梁瀬 上海への進出にあたり、準備された期間はどのくらいですか。

金本 4～5年かけてフィジビリティスタディ（事業可能性調査）を行いました。しかし、その4～5年と進出してから数ヶ月では、情報の質が全く違います。フィジビリティスタディでは主に間接的な情報で

したが、進出後は現場の情報が直接入ってくるので鮮度、質が良い。「郷に入っては郷に従え」で、各国のビジネスルールやニーズに沿った形に加工しないと、ビジネスとして成り立たないことがよくわかりました。

梁瀬 フィージビリティスタディでは2年目の黒字化を見込んでいましたか。

金本 当初は5年くらいかかる計算でした。しかし、行ってみて現地の生の情報を元に、レンタルに適する商材が見つかった、それをすばやく決断して導入することでビジネスに繋がりました。具体的には何を貸すかというよりも、まず誰に貸すかを考えました。そしてユーザー自身が気づいていないニーズを引き出し、当社の得意とするレンタルビジネスを展開したのです。

1つの指標「EBITDA」を掲げ、IR活動を行う

金本 当社はオリックスをひとつの模範として、IR活動を行っています。株価は将来の期待値ですから、もう少しがんばらなくてはならないと思っています。御社は外国人投資家を増やそうと、いろんな海外IRを展開されていますね。

梁瀬 今は日本全体が、がんばらなくてはならないタイミングなのではないでしょうか。日本をよく見ている投資家は、日本の株も不動産も今が絶好の買い場であり、相対的には非常に魅力的な経済大国である日本に上手にお金を入れて、巻き返しを図りたいと思っています。日本企業はアメリカだけでなく、広く海外に向かったIRを行うべきでしょうね。

金本 企業の説明不足で、まだ本当の日本、そして日本企業が認識されていないと感じます。

そのような中、当社がIR活動をする上で大切にしている指標は、一株あたりの営業利益をあげることです。これにつきます。

当社はストックビジネスを展開しているので、減価償却前の営業利益、いわゆるEBITDAを指標にして、これをいかに売上に対して、ないしは総資産に対して増やしていくか。効率を追求していくことで、一株あたりの営業利益はどんどんついてきます。

梁瀬 それは非常に明解なメッセージですね。

企業は人材が命—10年かけてマネージャークラスになるまで自社で育てる—

梁瀬 やはり会社も若いとき、伸び盛りのときが一番楽しくていいですね。

金本 幸か不幸か当社は若い人が多いので、経営陣の指示に対してすくまじめに実行してくれます。

梁瀬 若い人たちはどのような教育をされていますか。

金本 まだ充分ではないので、これから相当に時間とお金をかけて取り組んでいく方針です。現場を統率するマネージャーや会社の根幹を成す営業担当者をどなただけ育てられるかが重要になると考えているので、現場から遊離しないように社内の自分たちの手で人材を育成したいと思います。

梁瀬 社長が認めるレベルに達するまでに、どのくらいの期間がかかる想定ですか。

金本 早い人は5年くらい、遅い人で10年くらいでしょうか。協業関係にある建設業のパートナーなどに対して課題解決の回答を出せるマネージャークラスまでいくには、やはり10年ですね。

梁瀬 5~10年の先行投資を辛抱できるかということですね。

金本 しないとダメでしょう。建設業は3Kと目されていますが、我々もその親類のようなものなので、なかなか人材を集めにくいのが悩みです。新卒にこだわらず、いい人材がいればすぐに採用する。365日採用活動をしています。企業が人材が命です。経営資源の中でヒト、モノ、カネという順は変わりません。ヒトが一番です。

梁瀬 社長の経営哲学や座右の銘などがあればお聞かせいただけますか。

金本 ひとつ心がけていることは、レンタル事業は投資期間が長期にわたるので、会社を潰さないためにも財務は保守的にやろうと決めています。しかし、営業は超積極的にやる。この1点です。



株式会社カナモト
代表取締役社長

約1時間の対談は、マネジメントから世界経済、そして少子高齢化問題、趣味の話と多岐にわたりました。kca

金本 寛中

海外IR -- シンガポール

ノムラ・アジア・エクイティ・フォーラム(NAEF)



昨年に引き続き海外IRを実施しました。今年の訪問先はシンガポール。7月8日～11日にシャングリ・ラ・ホテルで行われた野村證券主催の「ノムラ・アジア・エクイティ・フォーラム(NAEF)2008」に出展いたしました。

第5回を迎える本フォーラムには、日本をはじめとするアジアの企業192社が参加。来場者数は前年を大きく上回る延べ1,600人で、世界中からヘッジファンド、年金ファンド、資産運用会社や個人富裕層投資家などが参加しました。

当社は20名程度の投資家向けにラージミーティングと1on1ミーティングを複数回実施。以下に、今回のミーティングで印象深かった投資家と当社社長のQ&Aを抜粋して記載いたします。

〔ミーティングでのQ&A〕

Q 日本の改正建築基準法が改正され、建設関係の企業業績に影響があると聞いたが、影響は終わったか？

A まだ続いている。

今までの1年間は環境が最悪だったと言える。建設の認可がなかなか下りなかったが、動き出してきた。今年の秋くらいまでには改正前と同じように回復するのではないかと。

Q レンタル業界が変わる可能性は？

A 欧米で行われたようなコンソリデーション（合併・整理・結合）が起こる。

現在2000社ほどある中小建機レンタル企業が集約される。

レンタル会社の大半は業歴40年程度であり、創業者社長が世代交代の時期にある。後継者がうまく見つければいいが、そうでない会社は、良い会社と手を組みたい、傘下に入りたいと考える。

Q カナモトが成長をしていく上でどういうものが必要か？

A 3つのポイント。2つは国内に、1つは海外市場にある。

国内の2点は、1つ目に建設需要のある地域に拠点を展開すること。その地域は関東と中京。

2つ目は、未出店地域に営業拠点をすること。そのときの手段として2つのやりかたがあるが、自社での出店とM&Aがある。

展開するスピードはM&Aの方が速いので、こちらが主体になると思う。

海外市場には乗り出したばかりであり、現在は上海の合弁会社と、グアムの現地法人の2つがある。

いずれもスタートして間もないが、状況は良好と判断している。

2社とも、現在のところ非連結会社だが、ボリュームが大きくなれば連結化もある。



投資家向けに実施したミーティングの様子

Q フリーキャッシュフロー(FCF)の考えは？

A FCFは成長が止まったときに増える。しかし、それは社長としてはあまりいいことではないと思う。フリーではない(用途のある)キャッシュフローにしたい。

会社が成長している間は、FCFをすべて投資に向けることは正しいと考えており、会社の成長が止まればFCFが増える。また、もしそうなったら(FCFが増えたら)相応の株主還元をしなければならないと思う。

Q 指標的に改善したいのは？

A レンタルで一番大切なのは営業利益率、それに関連して売上に対して、ないしは投資額に対してEBITDAがどれだけあるか。この推移を良く見る必要があり、これらを每期アップサイドにしたい。

Q カナモトの抱えるリスクは？

A 150ヶ所で営業することでリスク分散をしている。

倒産リスクについても大手ゼネコンでも当社全体の売上に対しては1%未満と分散している。もちろん、与信管理も厳格に行っている。

Q 建設関連の会社を見ると、ここ1年間は株が売られていると思う。カナモトの株価はブックバリュー(簿価)に対して株価の関連性が無いように見えるが、カナモトのブックバリューと株価のギャップの説明は？

A 株価に対するコメントを経営者がするのはあまり好ましくないが、現状の株価は低いのではないかと思います。

Q 株主還元の考え方は？

A 株主還元には株価を上げること、そのためには1株あたり純利益を上げる。

配当は当面は30%が最低条件、それ(30%台)の後半くらいか。

Q 自社株買いは？

A 株価があまりの低水準であればやる。取得した株式は、償却だけでなく金庫株と言う手段もありえる。



1on1ミーティングでも忌憚のないご意見をいただきました

Q オリックスとの関係は？

A 発展する過程でオリックスに第三者割当増資を実施(1980年)以後、当社の株式を保有していただいている。ファイナンスリースや割賦などレンタル資産調達の際に取引関係もある。関係は良好、非常勤取締役2名を派遣していただき、役員会でも意見を出していただいている。中国の合弁も、オリックスに5%持っていただき3社でやっている。

今回ご紹介することができたのはミーティングのほんの一部です。ほかにいただいたご質問も大変鋭く、的を得たものばかりでした。しかし一方で、後日いただいた投資家からのフィードバックでは「非常に合理的な戦略だと思う」「ポジティブウォッチです。株価が安すぎる」など前向きなご意見も数多くいただきました。

市場での存在感が増しているアジアの投資家を含む世界の投資家に、カナモトを知っていただく貴重な機会となりました。📌

第44期第3四半期財務・業績の概況

[2007 (平成19)年11月1日から2008 (平成20)年7月31日まで]

経営成績(連結)の進捗状況と業績予想

	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	四半期(当期)純利益 (百万円)	EPS (円)
44期第3四半期	53,668 (2.7)	2,291 (△37.9)	2,188 (△44.1)	974 (△62.4)	29.68
43期第3四半期	52,237 (4.0)	3,687 (20.7)	3,915 (33.4)	2,592 (138.1)	78.90
(参考)43期通期	68,626 (—)	4,236 (—)	4,416 (—)	3,035 (—)	92.40
通 期(予想)	71,000 (3.5)	2,800(△33.9)	2,600(△41.1)	1,000(△67.1)	30.45

(注) 売上高、営業利益、経常利益、四半期(当期)純利益におけるパーセント表示は、対前年同期増減率を示しております。

連結経営成績に関する説明

経営環境

当第3四半期の日本経済は、原油高騰による原材料・製品の値上げが相次いだほか、特に伸長してきた機械・自動車などの輸出関連産業も米国経済の冷え込みによる減産

を余儀なくされ、景況感は後退しました。一方、個人消費も生活コストの上昇が響き、消費財の購入や海外旅行なども低迷するなど消費行動の減退が顕在化しました。

第3四半期の業績と期初からの累積業績結果

第3四半期の業績

当社グループの主要ユーザーである建設関連産業は、建設需要の減退の中、地方経済牽引の一翼を担ってきた中堅デベロッパーの相次ぐ経営破綻もあり、一層の環境悪化が進む厳しい状況が続きました。

主業である建機レンタルについては、当該期間は新規公共事業発注の端境期となることから、昨年同様、民間設備投資の需要の地道な掘り起こしに努めました。しかしながら、原油市況に起因する建設資材の高騰等の要因もあり建設需要は盛り上がりには欠け、受注環境は地方においては特に

悪化の一途を辿りました。これらの結果、建設関連事業の当該期間の売上高は対前年当該期比2.4%減となりました。鉄鋼関連事業は資材高騰に加え、道央圏の商業施設建設需要から、当該期間の売上高は対前年当該期比50.0%の大幅増収となりました。

情報通信関連事業はPCレンタルの好調に加え、販売売上も中古PCが伸長、当該期間の売上高は対前年当該期比16.0%増となりました。

< 期初からの累積業績結果 >

以上の結果、平成20(2008)年10月期第3四半期までの累積連結業績につきましては、連結売上高が536億68百万円(同2.7%増)となりました。

一方、利益面では、レンタル用資産の運用効率向上に努めましたが、日本国内の建設需要が官民ともに減少したこともあり、レンタル売上が対前年を下回ったこと、並びに利益

財政状態(連結)の変動状況

	総資産 (百万円)	純資産 (百万円)	自己資本比率 (%)	一株当たり総資産 (円)
44期第3四半期	92,044	39,378	42.5	1,191.09
43期第3四半期	87,121	39,941	45.8	1,215.93
(参考)43期通期	85,155	39,973	46.9	1,216.98

連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	現金及び現金同等物 期末残高 (百万円)
44期第3四半期	3,256	△3,973	2,048	19,226
43期第3四半期	4,161	△1,218	△1,724	19,617
(参考)43期通期	4,479	△1,427	△4,237	17,213

率の高い中古建機売却は期初の計画どおりではあったものの絶対量としては対前年を下回ったことから、連結営業利益は22億91百万円(同37.9%減)となりました。また、前年実績の投資有価証券売却益、固定資産売却益等

の特殊要因がなかったことから、連結経常利益は21億88百万円(同44.1%減)、第3四半期連結純利益は9億74百万円(同62.4%減)と、それぞれ前年同期実績を大きく下回る結果となりました。

特記すべき事業展開と拠点新設閉鎖の状況

1)当該期間における拠点の新設閉鎖は、5月に幕別機械センター(北海道中川郡幕別町)を営業所に昇格させた以外、新設閉鎖はありませんでした。また、東洋工業株式会社(本社:東京都台東区)、キョクトーリース株式会社(本社:栃木県小山市)の株式をそれぞれ取得いたしました。

2)省エネルギー、リサイクルを主軸にしたレンタル製品として、ハイブリッドトラックやLED式夜間照明機器などを他社に

先駆けて導入、伸長しております。特にLEDランプは一般オフィスビルへの販売・レンタル(長期)を開始しました。

3)海外で展開する上海金和源設備租賃有限公司(邦文名称:上海金和源設備レンタル有限公司、本社:中国上海市)ならびにSJレンタル株式会社(本社:アメリカ準州グアム)は、共に非連結子会社ですが順調に業績を拡大しております。

連結業績予想に関する定性的情報

この業績予想については、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の経済環境予想等に基づいて予測し作成したものであり、リスクや不確定要素が含まれております。従いまして、実際の業績は、当社を取り巻

く経済情勢、市場動向、競合状況等、今後様々な要因によって、記載の金額の予想数値と異なる可能性がありますのでご承知おきください。

連結財務諸表

連結損益計算書

(単位:百万円)	第43期第3四半期 (2006.11.1~2007.7.31)	第44期第3四半期 (2007.11.1~2008.7.31)
① 売上高	52,237	53,668
売上原価	37,424	39,296
売上総利益	14,813	14,372
販売費及び一般管理費	11,126	12,080
② 営業利益	3,687	2,291
営業外収益	614	323
営業外費用	386	426
③ 経常利益	3,915	2,188
特別利益	949	53
特別損失	92	167
税金等調整前中間純利益	4,772	2,074
法人税、住民税及び事業税	2,022	874
法人税等調整額	158	140
少数株主利益	—	84
④ 四半期純利益	2,592	974

Point

連結売上高は対前年同期比2.7%増と増収を確保いたしました。
 主な要因として、鉄鋼関連事業が対前年同期比50.0%増と大きく寄与したこと、今期期初から九州建産グループ3社が新規連結に加わったことによるものです。

連結キャッシュ・フロー計算書

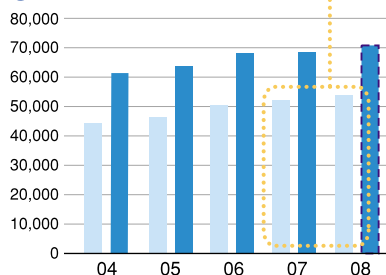
(単位:百万円)	第43期第3四半期 (2006.11.1~2007.7.31)	第44期第3四半期 (2007.11.1~2008.7.31)
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,161	3,256
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,218	△3,973
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,724	2,048
現金及び現金同等物の増加額	1,218	1,331
現金及び現金同等物の期首残高	18,398	17,213
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	680
現金及び現金同等物の四半期末残高	19,617	19,226

Point

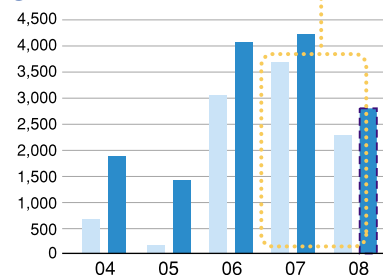
建設需要の減少から建機レンタル需要も減少し、特に地方では一段と厳しい環境におかれたことで利益率が悪化、営業利益は対前年同期比37.9%減となりました。
 経常利益は、前年同四半期に投資有価証券売却益2億78百万円が計上されていたため同44.1%と減少幅が大きくなっています。

■ 第3四半期 ■ 通期 ■ 予想値 単位:百万円

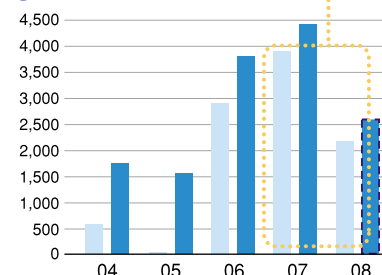
① 売上高



② 営業利益



③ 経常利益



連結貸借対照表

(単位:百万円)	第43期第3四半期 (2007.7.31)	第44期第3四半期 (2008.7.31)
(資産の部)		
流動資産	34,401	35,920
固定資産	52,719	56,124
有形固定資産	43,464	48,678
無形固定資産	722	1,033
投資その他の資産	8,532	6,412
⑤ 資産合計	87,121	92,044

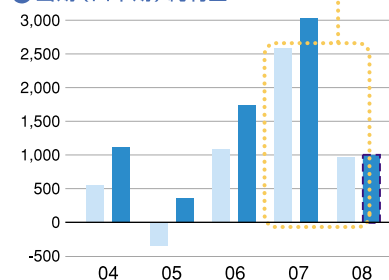
(単位:百万円)	第43期第3四半期 (2007.7.31)	第44期第3四半期 (2008.7.31)
(負債の部)		
流動負債	25,480	27,332
固定負債	21,698	25,333
負債合計	47,179	52,666
(純資産の部)		
株主資本	37,530	38,116
資本金	9,696	9,696
資本剰余金	10,960	10,960
利益剰余金	16,890	17,480
自己株式	△17	△21
評価・換算差額等	2,410	1,003
その他有価証券評価差額金	2,410	1,003
少数株主持分	—	258
純資産合計	39,941	39,378
⑥ 負債純資産合計	87,121	92,044

Point

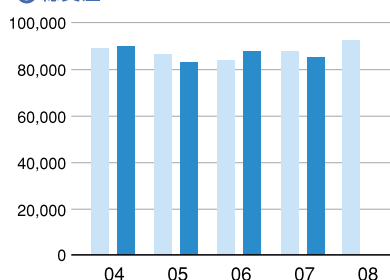
営業利益、経常利益の減益に加え、前期は固定資産売却益9億20百万円があったため、対前年同期比62.4%減となりました。

■ 第3四半期 ■ 通期 ■ 予想値 単位:百万円

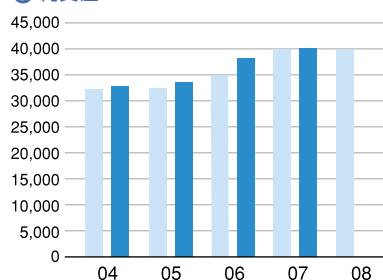
④ 当期(四半期)純利益



⑤ 総資産



⑥ 純資産



連結株主資本等変動計算書 (2007.11.1~2008.7.31)

(単位:百万円)	株主資本				株主資本合計	評価・換算差額等		少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式		その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計		
2007年10月31日残高	9,696	10,960	17,333	△19	37,971	2,002	2,002	—	39,973
四半期連結会計期間中の変動額									
剰余金の配当			△689		△689		—		△689
四半期純利益			974		974		—		974
連結の範囲の変更による減少高			△137		△137		—		△137
自己株式の取得				△1	△1		—		△1
株主資本以外の項目の四半期 連結会計期間中の変動額(純額)						△998	△998	258	△740
四半期連結会計期間中の変動額合計	—	—	146	△1	145	△998	△998	258	△594
2008年7月31日残高	9,696	10,960	17,480	△21	38,116	1,003	1,003	258	39,378

株主様からのご質問に答える

Q & A コーナー

いつもアンケートハガキをご返答いただきありがとうございます。皆様から頂戴したご質問にお答えするのがこのQ&Aコーナーです。
ご意見、ご要望がございましたら、添付のハガキにご記入のうえ、ご返送ください。

Q オリックスの株主順位が第3位まで下がっているが、関係が悪化したのか？

A ご指摘の株主順位につきましては、1980年に、当社発行済株式数の10%を保有していただいた後、昨年の立会外分売に株式を抛出していただくまで、同社の当社株式保有数に変わりありませんでした。小誌本号に掲載の社長対談をご高覧いただければ、両社の関係は極めて親密な状態が続いていることがわかりいただけたと存じます。

中国の合弁会社「上海金和源設備租賃有限公司」に一部ご出資をいただいていることなども含め、オリックス株式会社は今後も当社の事業展開の中で良きパートナーであります。

なお、現状の大株主（2008年10月期中間期末時点）を見ますと、第1位に日本トラスティ・サービス信託銀行様、第2位に日本マスタートラスト信託銀行様となっています。これは、外国人持株比率の上昇に伴い両行の信託口の持株比率が上昇したものです。☒

Lineup 取扱商品のご紹介

今回は、展示会を中心に、店舗や住宅など幅広い分野で活躍するディスプレイウォールと、次世代の照明として注目を集めている「LED照明」をご紹介します。

ディスプレイウォール

展示ブースなどの壁材・床材に利用するシステムパネル「ディスプレイウォール」は、従来の作りこみをした展示会ブースのように一度きりの使い捨てではなく、100%リサイクルできる間仕切り用壁材です。塩化ビニール製で、破損や老化化しても再度リサイクルできる循環型商品であり、ディスプレイシステムのスタンダード「オクタノルム」にも

対応しています。ディスプレイウォールのスリットに、自在に固定できるトレーやフックなど、多種多様なアクセサリをご用意しているほか、カラーパリエーションも豊富で、展示会などの仮設間仕切りはもちろんのこと、店舗や居室、ガレージなどの常設の壁材としても有用です。



(左から)バイン、セダー、ホワイト、ブラックの4色をご用意



オクタノルム対応のディスプレイウォールで構成された展示ブース。展示用のスポットライトなどにはLED照明を使用

LED照明

続いてご紹介するのは、次世代の照明として注目を集めているLED 発光ダイオード照明。現在、当社で取り扱うLED照明は、ランプ型・スタック型・シート型の3タイプ。いずれも約40,000時間の「長寿命」、白熱灯の1/10の消費電力という「省エネ」に加え、これまでのLEDを凌駕する「高輝度」といった数々のメリットを持

っています。環境に配慮した商品として、工事現場用夜間照明、商業ビル、展示会など、さまざまな場所でレンタル・販売しています。☒

シート型LEDを活用した、展示ブースのディスプレイタワー(上)
工事現場などで活躍するパルーナライト型のLED照眠(下)



ディスプレイウォール、LED照明器具に関するお問い合わせは
カナモト ニュープロダクツ室まで

☎ 03-5408-5605 (担当: 吉田)

株価チャート（週足）



株価および売買高（東証分のみ。単位：円、出来高は千株）

	始 値	高 値	安 値	終 値	出来高
2007年 9月	1,045	1,244	1,010	1,222	1,192
10月	1,149	1,230	981	1,071	4,766
11月	1,080	1,086	737	807	3,300
12月	817	842	647	660	4,038
2008年 1月	660	666	555	659	3,989
2月	659	698	630	675	2,434
3月	676	676	538	610	2,206
4月	620	653	602	635	1,142
5月	635	709	610	637	1,571
6月	650	656	587	599	1,917
7月	601	601	528	559	1,001
8月	579	585	500	527	754

株主メモ（2008年9月30日現在）

資 本 金	96億9,671万円(払込済資本金)
発 行 株 数	32,872千株(発行済株式の総数)
事 業 年 度	11月1日から翌年10月31日まで
株 主 総 会	毎年 1月中
同総会議決権行使株主確定日	毎年 10月31日
期末配当金受領株主確定日	毎年 10月31日
中間配当金受領株主確定日	毎年 4月30日
公 告 の 掲 載	当社ホームページ、日本経済新聞*

お手持ちの株券に関するお手続きのほか、住所、名義、届出印、配当金の振込み口座などの変更をご希望の場合は、下記「株主名簿管理人」宛てにご連絡をいただきたく、お願いいたします。なお、株券を証券会社に預託されている場合は、当該証券会社へご連絡くださいますようお願いいたします。

株 主 名 簿 管 理 人	三菱UFJ信託銀行株式会社
同 事 務 取 扱 場 所	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都千代田区丸の内1丁目4番5号
同 郵 便 物 送 付 先 及 び 電 話 照 会 先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137 - 8081 東京都江東区東砂7丁目10番11号 電話 0120-232-711(フリーダイヤル)
同 取 次 所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店 / 野村證券株式会社 全国本支店

* 当社公告の掲載につきましては、当社ホームページ(<http://www.kanamoto.co.jp>) または <http://www.kanamoto.ne.jp>) に掲載いたします。
なお、やむを得ない事由により、ホームページに公告を掲載することができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

株主の皆様へ 株券の電子化についてのお知らせ

株券の取引等がより安全かつ迅速に行われることを目的として、2004年6月に「株券の電子化」に関する法律が公布されました。これにより、上場会社の株券は2009年6月までに電子化されます。具体的な実施日は政令で決定されますが、2009年1月を実施目標として準備が進められています。「株券の電子化」の詳細につきましては、下記センターまでお問い合わせください。

お問い合わせ先

日本証券業協会 証券決済制度改革推進センター
TEL. 03-3667-4500

ホームページ <http://www.kessaicenter.com/>

編 集 後 記

あまりにも、あれこれあった三ヶ月でした。メリルリンチ、リーマン・ブラザーズというビッグネームが終焉を迎えるとは思ってもありませんでした。同じ稜線にあった筈なのに、救済を受けられた企業と奈落に落とされた企業。その判断基準の曖昧さも含め、10余年前、1997年の日本を見るようです。

どこの国の行政にも適当さを感じますが、責任の無さ加減では日本も地位を争う処。一国の代表なのですから、政党の威信よりも世界における日本の有り様を考えるべき。一年で投げ出されては困ります。加えて、各官庁も猛省いただかねば。

民間も同じです。国内にあっては事故米、隣国の中国では毒入りミルクと、私利私欲だけが先行しています。行き過ぎた投機もまた然り。同じ無責任でも、昭和の無責任男、植木等には良心と寛容があったと思うのは私だけでしょうか。

カナモトは、良心を逸脱せずに正直な仕事をして行きます。 **ka**

拠点ネットワーク

■ レンタル事業部 (152拠点) ● 鉄鋼事業部 (3拠点) ▲ 情報機器事業部 (1拠点)

カナモト アライアンスグループ

連結子会社

- 株式会社アシスト (10拠点)
- 株式会社エスアールジー・カナモト (4拠点)
- 株式会社カナテック (10拠点)
- 第一機械産業株式会社 (9拠点)
- 株式会社カンキ (7拠点)
- 株式会社九州建産 (17拠点)
- 株式会社建産福岡 (2拠点)
- 株式会社建産テクノ (1拠点)

非連結子会社

- 株式会社コムサプライ (5拠点)
- フローテクノ株式会社 (2拠点)
- 株式会社センター・コーポレーション (1拠点)
- 上海金和源設備租賃有限公司 (1拠点)
- SJ RENTAL, Inc. (1拠点)
- 株式会社カナモトエンジニアリング (1拠点)
- 東洋工業株式会社 (4拠点)
- キョクトーリース株式会社 (7拠点)

アライアンス提携会社

- 町田機工株式会社 (15拠点)
- ツールレンタル事業* (7拠点)

*ホームセンター大手の(株)コメリと提携し、小物機械のレンタル事業を展開

■ 当社及び当社グループ国内営業拠点エリア別内訳 2008年9月30日現在

	カナモト	連結対象会社	その他 アライアンスグループ	計
北海道	60	20	4	84
東北	44	2	6	52
関東	28	1	14	43
中部	17	—	—	17
近畿	5	7	—	12
中国	1	—	—	1
四国	1	—	—	1
九州	—	30	3	33
沖縄	—	—	15	15
計	156	60	42	258



kanamoto **株式会社 カナモト**
(東証一部・札証 証券コード: 9678)

〒060-0041 札幌市中央区大通東3丁目1番地19
Tel: (011) 209-1600 (大代表)
www.kanamoto.co.jp



本誌は、再生紙と大豆油インキを使用しております。